

第5章 がん検診の受診状況

1 胃がん検診の受診の有無[複数回答]と検査方法[複数回答]

胃がん検診を「過去1年以内に受けた」人の割合は、25.9%であった。一方で、「受けたことがない」人の割合は、48.0%であった。(図 -5-1)

胃がん検診を「過去1年以内に受けた」と「1年以上前に受けたことがある」と回答した人(3,295人)に、検査方法を聞いたところ、「胃エックス線検査」が60.6%で最も高くなっている。(図 -5-2)

問 胃がん検診の受診の有無と検査方法を選んでください。

(注) がん検診については、健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。

図 -5-1 胃がん検診の受診の有無[複数回答]

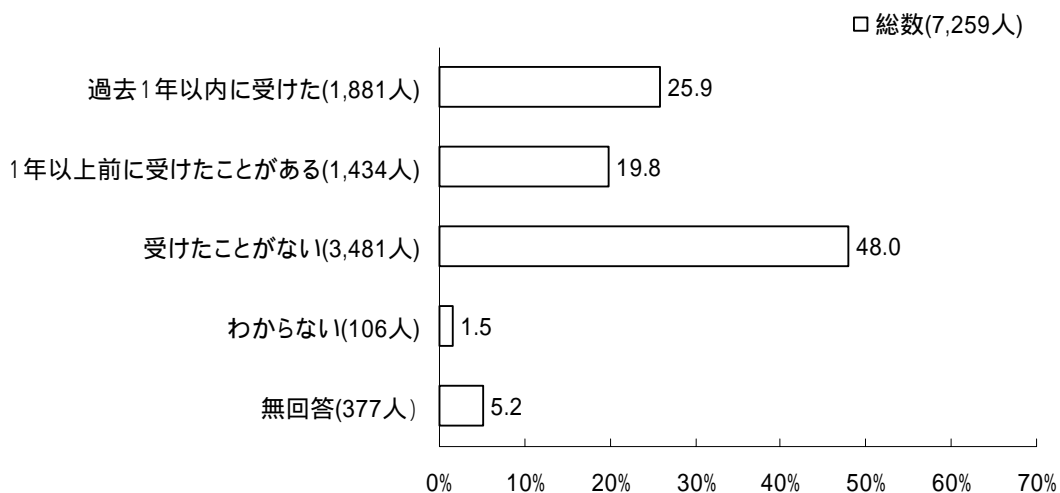
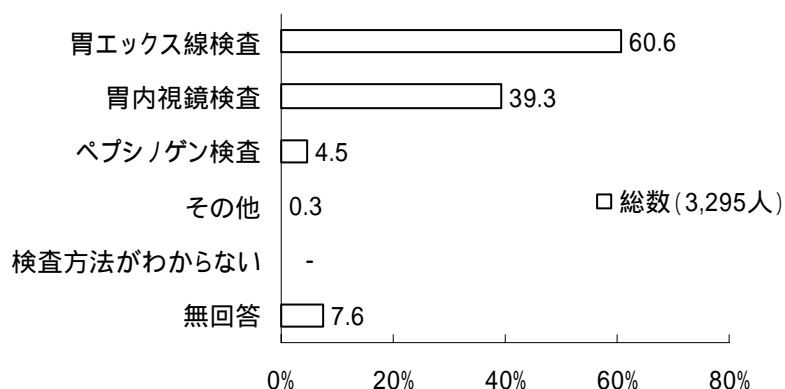


図 -5-2 胃がん検診の検査方法[複数回答]



<参考> 胃がん検診に関する国指針(「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」)

検査方法…胃エックス線検査

対象者…40歳以上

受診間隔…年1回

(1) 胃がん検診の受診の有無[複数回答] - 性・年齢階級別

40歳以上で過去1年以内に胃がん検診を受けた人の割合は、男性の方が女性より高い

胃がん検診の受診の有無について、性・年齢階級別にみると、「過去1年以内に受けた」人の割合は、男性29.1%、女性23.1%で、男性の方が高くなっている。

40歳以上で「過去1年以内に受けた」人の割合は32.0%で、男性36.3%、女性28.3%と、男性の方が高くなっている。(表 -5-1)

表 -5-1 胃がん検診の受診の有無[複数回答] - 性・年齢階級別

	総 数	に過 受去 け1 た年 以 内	あ受1 るけ年 た以 こ上 と前 がに	な受 いけ たこ とが	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (7,259)	25.9	19.8	48.0	1.5	5.2
男	100.0 (3,426)	<u>29.1</u>	17.0	48.4	1.5	4.3
20～29歳	100.0 (393)	2.0	1.5	89.1	3.3	4.1
30～39歳	100.0 (589)	17.7	8.0	68.6	1.4	4.9
40～49歳	100.0 (591)	41.6	14.6	39.4	1.9	2.7
50～59歳	100.0 (509)	44.4	17.5	35.8	0.6	2.6
60～69歳	100.0 (616)	34.1	23.4	36.9	1.5	4.5
70～79歳	100.0 (532)	30.5	30.3	32.1	1.3	6.2
80歳以上	100.0 (187)	20.9	25.7	44.9	1.1	7.5
女	100.0 (3,833)	<u>23.1</u>	22.2	47.6	1.4	5.9
20～29歳	100.0 (447)	2.9	3.6	83.2	1.8	8.5
30～39歳	100.0 (611)	14.6	11.3	67.3	0.8	6.2
40～49歳	100.0 (632)	31.2	24.8	40.2	0.5	3.8
50～59歳	100.0 (542)	30.8	27.1	36.9	0.4	5.2
60～69歳	100.0 (724)	31.8	27.1	35.1	1.4	5.0
70～79歳	100.0 (595)	24.7	29.4	37.0	2.2	6.7
80歳以上	100.0 (267)	14.6	33.7	39.0	4.5	8.2
(再掲) 総数 40歳以上	56.6 (5,195)	<u>32.0</u>	24.9	37.1	1.4	4.9
男 40歳以上	100.0 (2,435)	<u>36.3</u>	21.7	36.8	1.3	4.3
女 40歳以上	100.0 (2,760)	<u>28.3</u>	27.7	37.4	1.4	5.4

(2) 胃がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

主に仕事をしている人で、過去1年以内に胃がん検診を受けた人の割合は、3割

胃がん検診の受診の有無について、就業状況別にみると、「過去1年以内に受けた」割合が最も高いのは、主に仕事をしている人で、28.9%となっている。(表 -5-2)

表 -5-2 胃がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

	総 数	に過 去 1 年 以 内	あ る 1 年 以 上 前 に	な 受 い け た こ と が	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (7,259)	25.9	19.8	48.0	1.5	5.2
労働力人口	100.0 (4,562)	27.3	15.8	50.9	1.3	5.0
就業者	100.0 (4,429)	27.7	15.8	50.6	1.3	5.0
主に仕事	100.0 (3,535)	28.9	14.5	50.7	1.3	5.0
家事などのほかに仕事	100.0 (742)	24.7	22.1	47.2	1.1	5.1
通学のかたわらに仕事	100.0 (69)	1.4	4.3	92.8	-	1.4
その他	100.0 (83)	24.1	25.3	44.6	2.4	3.6
仕事を探していた	100.0 (133)	15.0	15.8	61.7	2.3	5.3
非労働力人口	100.0 (2,609)	23.7	26.5	43.0	1.8	5.3
家事(専業)	100.0 (1,307)	24.7	26.9	42.8	1.0	4.8
通学のみ	100.0 (101)	1.0	2.0	91.1	2.0	4.0
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (1,201)	24.5	28.1	39.2	2.7	5.8

(3) 胃がん検診の検査方法[複数回答] - 性・年齢階級別

胃がん検診の検査方法について、性・年齢階級別にみると男女とも、「胃エックス線検査」の割合が最も高く、それぞれ、61.0%、60.2%となっている。(表 -5-3)

表 -5-3 胃がん検診の検査方法[複数回答] - 性・年齢階級別

	総 数	胃 エ ッ ク ス 線 検 査	胃 内 視 鏡 検 査	ペ プ シ ノ ゲ ン 検 査	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (3,295)	60.6	39.3	4.5	0.3	7.6
男	100.0 (1,567)	61.0	37.3	3.8	0.4	8.7
20～29歳	100.0 (14)	71.4	28.6	-	-	7.1
30～39歳	100.0 (148)	77.7	18.9	4.7	-	8.1
40～49歳	100.0 (331)	73.7	20.2	3.3	0.3	10.0
50～59歳	100.0 (311)	68.8	29.3	3.5	0.6	8.7
60～69歳	100.0 (352)	56.0	46.0	4.0	0.6	6.8
70～79歳	100.0 (321)	42.1	57.9	4.7	0.3	9.3
80歳以上	100.0 (87)	43.7	54.0	1.1	1.1	11.5
女	100.0 (1,728)	60.2	41.1	5.2	0.2	6.6
20～29歳	100.0 (29)	44.8	44.8	3.4	-	6.9
30～39歳	100.0 (157)	81.5	25.5	3.2	-	3.2
40～49歳	100.0 (351)	71.8	27.6	5.4	0.3	5.4
50～59歳	100.0 (312)	68.6	38.1	5.4	0.3	4.2
60～69歳	100.0 (424)	55.2	47.9	7.3	0.2	5.9
70～79歳	100.0 (322)	43.8	53.1	3.1	0.3	10.6
80歳以上	100.0 (129)	41.9	51.9	4.7	-	12.4
(再掲) 総数40歳以上	100.0 (2,940)	58.6	41.2	4.6	0.4	7.9
男 40歳以上	100.0 (1,402)	59.1	39.4	3.7	0.5	8.8
女 40歳以上	100.0 (1,538)	58.2	42.7	5.4	0.3	7.0

2 大腸がん検診の受診の有無[複数回答]と検査方法[複数回答]

大腸がん検診を「過去1年以内に受けた」人の割合は、26.0%であった。一方で、「受けたことがない」人の割合は、51.9%であった。(図 -5-3)

大腸がん検診を「過去1年以内に受けた」と「1年以上前に受けたことがある」と回答した人(2,970人)に、検査方法を聞いたところ、「便潜血検査」が73.8%で最も高くなっている。(図 -5-4)

問 大腸がん検診の受診の有無と検査方法を選んでください。

(注) がん検診については、健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものを含む。

図 -5-3 大腸がん検診の受診の有無[複数回答]

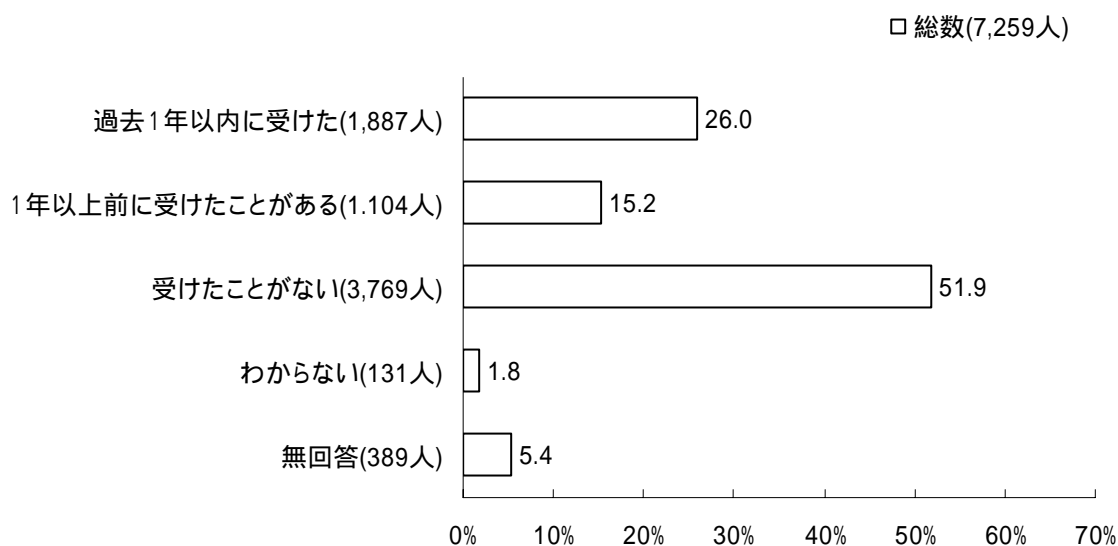
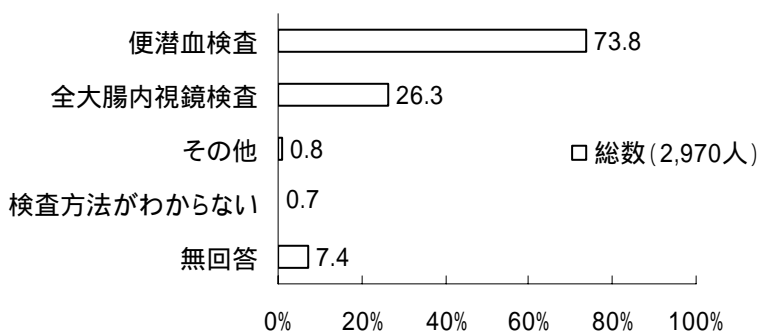


図 -5-4 大腸がん検診の検査方法[複数回答]



<参考> 大腸がん検診に関する国指針(「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」)

検査方法…便潜血検査

対象者…40歳以上

受診間隔…年1回

(1) 大腸がん検診の受診の有無[複数回答] - 性・年齢階級別

40歳以上で過去1年以内に大腸がん検診を受けた人の割合は、男性の方が女性より高い

大腸がん検診の受診の有無について、性・年齢階級別にみると、「過去1年以内に受けた」人の割合は、男性28.5%、女性23.8%で、男性の方が高くなっている。

40歳以上で「過去1年以内に受けた」人の割合は32.7%で、男性35.7%、女性30.0%と、男性の方が約5ポイント高くなっている。(表 -5-4)

表 -5-4 大腸がん検診の受診の有無[複数回答] - 性・年齢階級別

	総 数	受 過 け 去 た 1 年 以 内 に	け 1 年 以 上 が 前 に 受	い 受 け た こ と が な	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (7,259)	26.0	15.2	51.9	1.8	5.4
男	100.0 (3,426)	<u>28.5</u>	13.7	51.8	2.0	4.5
20～29歳	100.0 (393)	2.3	0.5	88.8	4.3	4.1
30～39歳	100.0 (589)	16.0	5.4	71.8	1.7	5.3
40～49歳	100.0 (591)	37.6	11.2	46.5	2.4	2.5
50～59歳	100.0 (509)	38.9	16.9	40.7	1.0	2.9
60～69歳	100.0 (616)	35.4	19.8	39.4	1.9	4.2
70～79歳	100.0 (532)	34.4	24.1	35.2	1.1	6.2
80歳以上	100.0 (187)	26.2	18.2	44.4	1.6	9.6
女	100.0 (3,833)	<u>23.8</u>	16.5	52.1	1.7	6.1
20～29歳	100.0 (447)	2.2	2.2	85.7	1.3	8.5
30～39歳	100.0 (611)	12.3	8.8	71.2	1.3	6.5
40～49歳	100.0 (632)	29.6	19.6	46.5	0.8	3.8
50～59歳	100.0 (542)	30.3	23.8	40.2	0.9	5.0
60～69歳	100.0 (724)	34.0	19.5	39.8	1.7	5.2
70～79歳	100.0 (595)	29.4	20.5	39.8	2.5	7.9
80歳以上	100.0 (267)	20.6	19.5	48.7	4.9	6.7
(再掲) 総数40歳以上	51.6 (5,195)	<u>32.7</u>	19.3	41.6	1.7	5.0
男 40歳以上	100.0 (2,435)	<u>35.7</u>	17.9	40.9	1.6	4.4
女 40歳以上	100.0 (2,760)	<u>30.0</u>	20.6	42.3	1.8	5.6

(2) 大腸がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

大腸がん検診の受診の有無について、就業状況別にみると、「過去1年以内に受けた」割合は、労働力人口(仕事をしている、探している人)、非労働力人口(働いていない人)ともに26.0%となっている。(表 -5-5)

表 -5-5 大腸がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

	総 数	た 過 去 1 年 以 内 に 受 け	こ と が あ る 1 年 以 上 前 に 受 け た	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (7,259)	26.0	15.2	51.9	1.8	5.4
労働力人口	100.0 (4,562)	26.0	12.9	54.8	1.6	5.0
就業者	100.0 (4,429)	26.2	12.9	54.5	1.6	5.0
主に仕事	100.0 (3,535)	27.0	12.3	54.4	1.7	5.0
家事などのほかに仕事	100.0 (742)	24.5	16.7	52.2	1.2	5.8
通学のかたわらに仕事	100.0 (69)	-	2.9	95.7	-	1.4
その他	100.0 (83)	31.3	14.5	48.2	2.4	3.6
仕事を探していた	100.0 (133)	17.3	12.0	63.2	3.8	4.5
非労働力人口	100.0 (2,609)	26.0	19.0	47.3	2.1	5.7
家事(専業)	100.0 (1,307)	25.6	20.4	47.8	1.5	5.0
通学のみ	100.0 (101)	1.0	2.0	92.1	1.0	4.0
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (1,201)	28.6	19.1	43.0	2.9	6.5

(3) 大腸がん検診の検査方法[複数回答] - 性・年齢階級別

大腸がん検診の検査方法について、性・年齢階級別にみると男女とも、「便潜血検査」の割合が最も高く、それぞれ、71.9%、75.6%となっている。(表 -5-6)

表 -5-6 大腸がん検診の検査方法[複数回答] - 性・年齢階級別

	総 数	便 潜 血 検 査	全 大 腸 内 視 鏡 検 査	そ の 他	な い 検 査 方 法 が わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (2,970)	73.8	26.3	0.8	0.7	7.4
男	100.0 (1,432)	71.9	28.2	0.9	0.8	7.7
20～29歳	100.0 (11)	81.8	18.2	-	-	-
30～39歳	100.0 (125)	87.2	11.2	-	-	5.6
40～49歳	100.0 (287)	81.2	13.6	1.0	1.0	8.4
50～59歳	100.0 (282)	76.2	20.9	1.8	0.4	9.6
60～69歳	100.0 (335)	68.1	34.6	1.2	1.2	6.0
70～79歳	100.0 (306)	60.8	44.1	-	1.0	8.2
80歳以上	100.0 (83)	56.6	47.0	1.2	-	8.4
女	100.0 (1,538)	75.6	24.4	0.7	0.6	7.2
20～29歳	100.0 (20)	75.0	15.0	-	-	10.0
30～39歳	100.0 (128)	84.4	18.8	0.8	0.8	4.7
40～49歳	100.0 (309)	85.8	16.2	-	0.6	5.2
50～59歳	100.0 (292)	80.5	20.5	1.7	-	5.1
60～69歳	100.0 (386)	73.6	26.7	0.8	1.3	6.0
70～79歳	100.0 (296)	63.5	33.4	0.3	0.3	11.1
80歳以上	100.0 (106)	62.3	34.9	-	-	14.2
(再掲) 総数40歳以上	100.0 (2,682)	72.6	27.5	0.8	0.7	7.6
男 40歳以上	100.0 (1,293)	70.3	30.0	1.0	0.9	8.0
女 40歳以上	100.0 (1,389)	74.7	25.1	0.6	0.6	7.3

3 肺がん検診の受診の有無[複数回答]と検査方法[複数回答]

肺がん検診を「過去1年以内に受けた」人の割合は、30.3%であった。一方で、「受けたことがない」人の割合は、52.0%であった。(図 -5-5)

肺がん検診を「過去1年以内に受けた」と「1年以上前に受けたことがある」と回答した人(2,912人)に、検査方法を聞いたところ、「胸部エックス線検査」が88.7%で最も高くなっている。(図 -5-6)

問 肺がん検診の受診の有無と検査方法を選んでください。

(注) がん検診については、健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものを含む。

図 -5-5 肺がん検診の受診の有無[複数回答]

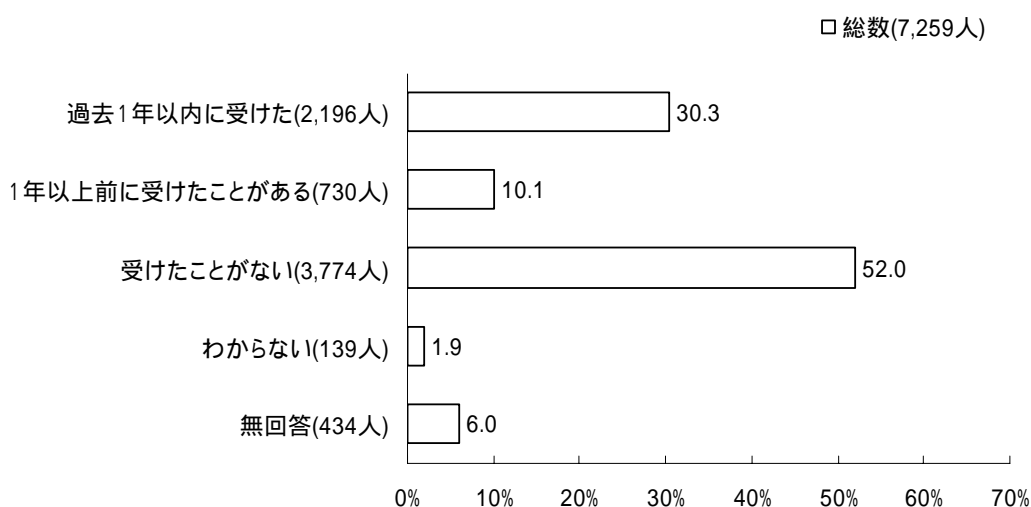
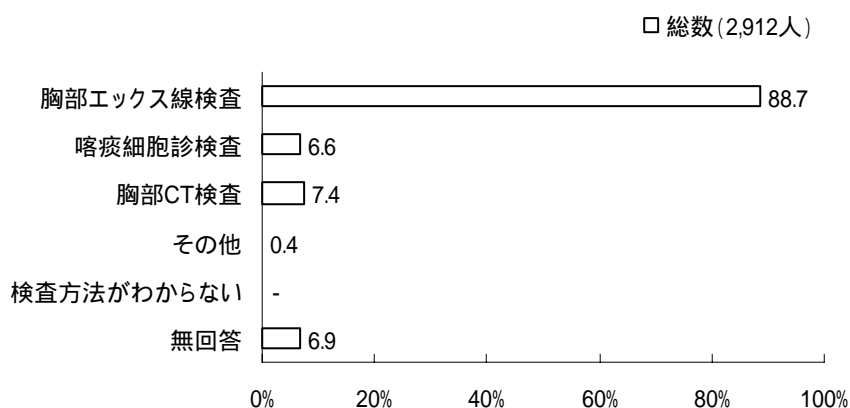


図 -5-6 肺がん検診の検査方法[複数回答]



<参考> 肺がん検診に関する国指針(「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」)
 検査方法…胸部エックス線検査及び喀痰細胞診(医師が必要と認めた者)
 対象者…40歳以上
 受診間隔…年1回

(1) 肺がん検診の受診の有無[複数回答] - 性・年齢階級別

40歳以上で過去1年以内に肺がん検診を受けた人の割合は、男性の方が女性より高い

肺がん検診の受診の有無について、性・年齢階級別にみると、「過去1年以内に受けた」人の割合は、男性34.2%、女性26.8%と、男性の方が高くなっている。

40歳以上で「過去1年以内に受けた」人の割合は36.2%で、男性40.8%、女性32.1%と、男性の方が約9ポイント高くなっている。(表 -5-7)

表 -5-7 肺がん検診の受診の有無[複数回答] - 性・年齢階級別

	総 数	受 過 け 去 た 1 年 以 内 に	け 1 た 年 こ 以 上 が 前 に 受	い 受 け た こ と が な	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (7,259)	30.3	10.1	52.0	1.9	6.0
男	100.0 (3,426)	34.2	8.9	50.3	2.0	4.8
20～29歳	100.0 (393)	7.4	0.5	83.5	4.6	4.1
30～39歳	100.0 (589)	24.4	4.6	65.2	1.4	4.6
40～49歳	100.0 (591)	46.2	7.6	40.4	3.0	2.7
50～59歳	100.0 (509)	48.9	9.6	37.9	0.8	2.9
60～69歳	100.0 (616)	38.6	14.1	40.6	1.3	5.8
70～79歳	100.0 (532)	34.8	14.8	42.1	2.1	6.8
80歳以上	100.0 (187)	26.2	8.6	53.5	1.6	10.2
女	100.0 (3,833)	26.8	11.1	53.5	1.8	7.0
20～29歳	100.0 (447)	8.1	4.3	77.6	1.3	8.7
30～39歳	100.0 (611)	16.9	6.9	67.8	1.3	7.4
40～49歳	100.0 (632)	34.0	13.6	47.0	0.9	4.6
50～59歳	100.0 (542)	38.7	15.3	39.5	1.3	5.7
60～69歳	100.0 (724)	34.0	13.5	44.6	1.8	6.1
70～79歳	100.0 (595)	25.5	11.4	51.8	2.0	9.4
80歳以上	100.0 (267)	24.0	10.5	51.3	6.0	8.2
(再掲) 総数 40歳以上	48.3 (5,195)	36.2	12.3	44.0	1.9	5.9
男 40歳以上	100.0 (2,435)	40.8	11.3	41.3	1.8	5.0
女 40歳以上	100.0 (2,760)	32.1	13.2	46.3	2.0	6.6

(2) 肺がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

主に仕事をしている人で、過去1年以内に肺がん検診を受けた人の割合は、3割

肺がん検診の受診の有無について、就業状況別にみると、「過去1年以内に受けた」割合が最も高いのは、主に仕事をしている人で34.0%となっている。(表 -5-8)

表 -5-8 肺がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

	総 数	た過 去 1 年 以 内 に 受 け	こ1 年 が 以 上 前 に 受 け た	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (7,259)	30.3	10.1	52.0	1.9	6.0
労働力人口	100.0 (4,562)	32.0	8.3	52.6	1.9	5.4
就業者	100.0 (4,429)	32.2	8.2	52.4	1.9	5.4
主に仕事	100.0 (3,535)	34.0	7.3	51.5	2.0	5.3
家事などのほかに仕事	100.0 (742)	28.4	11.9	52.4	1.3	5.9
通学のかたわらに仕事	100.0 (69)	-	5.8	91.3	1.4	1.4
その他	100.0 (83)	18.1	14.5	60.2	3.6	3.6
仕事を探していた	100.0 (133)	22.6	12.0	57.9	3.0	6.0
非労働力人口	100.0 (2,609)	27.4	13.0	51.2	2.0	6.7
家事(専業)	100.0 (1,307)	25.9	14.9	51.9	1.1	6.6
通学のみ	100.0 (101)	7.9	-	87.1	1.0	4.0
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (1,201)	30.6	12.1	47.4	3.0	7.2

(3) 肺がん検診の検査方法[複数回答] - 性・年齢階級別

肺がん検診の検査方法について、性・年齢階級別にみると男女とも、「胸部エックス線検査」の割合が最も高く、それぞれ、87.5%、90.0%となっている。(表 -5-9)

表 -5-9 肺がん検診の検査方法[複数回答] - 性・年齢階級別

	総 数	胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査	喀 痰 細 胞 診 検 査	胸 部 C T 検 査	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (2,912)	88.7	6.6	7.4	0.4	6.9
男	100.0 (1,468)	87.5	8.7	8.3	0.5	7.6
20～29歳	100.0 (31)	87.1	-	6.5	3.2	12.9
30～39歳	100.0 (170)	92.4	2.4	2.9	-	6.5
40～49歳	100.0 (318)	86.8	8.2	4.1	0.3	8.8
50～59歳	100.0 (297)	85.9	11.4	7.1	1.3	9.1
60～69歳	100.0 (322)	87.3	9.9	12.1	0.6	5.9
70～79歳	100.0 (261)	87.7	8.8	13.4	-	6.5
80歳以上	100.0 (65)	84.6	13.8	10.8	-	9.2
女	100.0 (1,444)	90.0	4.4	6.4	0.3	6.2
20～29歳	100.0 (55)	89.1	1.8	1.8	-	7.3
30～39歳	100.0 (144)	95.1	1.4	1.4	0.7	3.5
40～49歳	100.0 (300)	93.7	2.7	3.7	0.3	4.7
50～59歳	100.0 (290)	90.3	5.5	6.6	0.3	5.9
60～69歳	100.0 (344)	88.1	7.6	8.7	0.3	6.4
70～79歳	100.0 (219)	85.8	4.6	9.1	0.5	8.7
80歳以上	100.0 (92)	87.0	1.1	10.9	-	8.7
(再掲) 総数40歳以上	100.0 (2,508)	88.1	7.4	8.2	0.4	7.1
男 40歳以上	100.0 (1,263)	86.8	9.8	9.1	0.6	7.7
女 40歳以上	100.0 (1,245)	89.5	4.9	7.2	0.3	6.4

4 乳がん検診の受診の有無[複数回答]と検査方法[複数回答]

女性で乳がん検診を「過去2年以内に受けた」人の割合は、28.5%であった。一方で、「受けたことがない」人の割合は、47.1%であった。(図 -5-7)

乳がん検診を「過去2年以内に受けた」と「2年以上前に受けたことがある」と回答した人(1,729人)に、検査方法を聞いたところ、「視触診検査」が63.2%で最も高く、次いで「マンモグラフィ検査」が58.0%、「乳房超音波(エコー)検査」が36.6%であった。(図 -5-8)

問 乳がん検診の受診の有無と検査方法を選んでください。(女性のみ)

(注) がん検診については、健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。

図 -5-7 乳がん検診の受診の有無[複数回答]

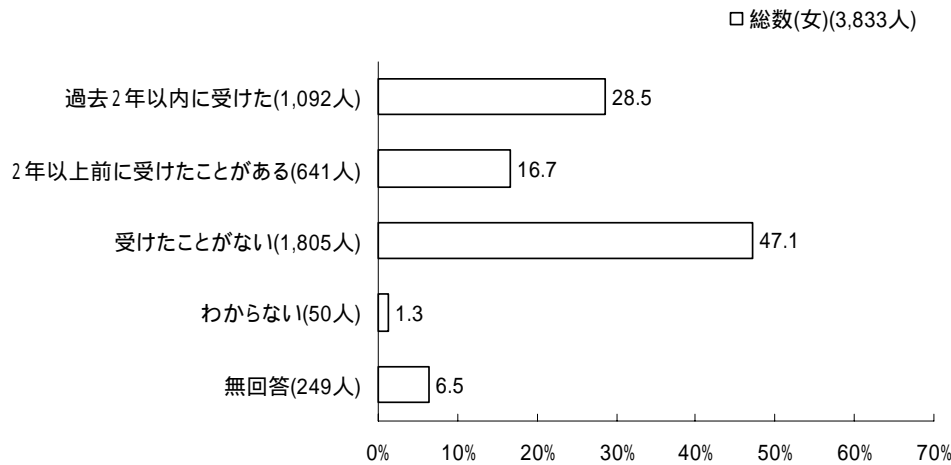
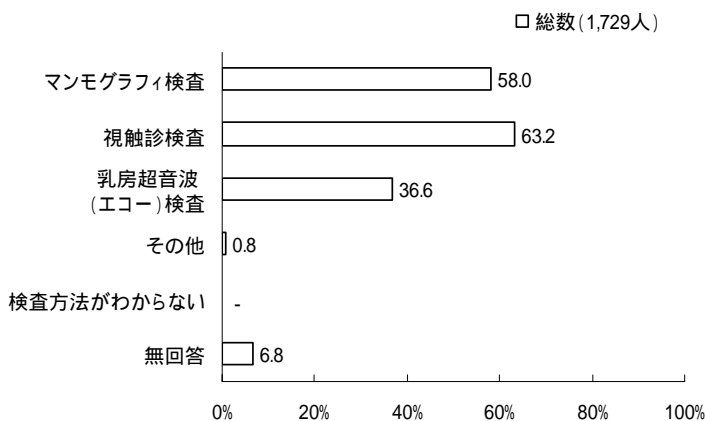


図 -5-8 乳がん検診の検査方法[複数回答]



<参考> 乳がん検診に関する国指針(「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」)

検査方法・・・マンモグラフィと視触診の両方

対象者・・・40歳以上

受診間隔・・・2年に1回

(1) 乳がん検診の受診の有無[複数回答] - 年齢階級別

過去2年以内に乳がん検診を受けた人の割合は、40代女性が最も高く5割

乳がん検診の受診の有無について、年齢階級別にみると、「過去2年以内に受けた」割合は、40代女性が最も高く49.5%、次いで50代女性が40.6%となっている。(表 -5-10)

表 -5-10 乳がん検診の受診の有無[複数回答] - 年齢階級別

	総 数	た 過 去 2 年 以 内 に 受 け	こ 2 年 が 以 上 前 に 受 け た	受 け た こ と が ない	わ か ら ない	無 回 答
総数(女)	100.0 (3,833)	28.5	16.7	47.1	1.3	6.5
20～29歳	100.0 (447)	9.4	3.1	77.4	0.9	9.2
30～39歳	100.0 (611)	31.6	10.5	51.1	1.0	6.1
40～49歳	100.0 (632)	49.5	19.6	28.6	0.2	2.2
50～59歳	100.0 (542)	40.6	22.0	33.4	0.2	4.2
60～69歳	100.0 (724)	30.0	23.8	39.1	1.5	5.7
70～79歳	100.0 (595)	14.8	19.5	53.4	1.7	10.6
80歳以上	100.0 (267)	5.2	11.6	66.3	6.0	10.9
(再掲)40歳以上	100.0 (2,760)	30.9	20.4	41.3	1.4	6.2

(2) 乳がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

過去2年以内に乳がん検診を受けた人の割合は、主に仕事をしている人、家事などのほかに仕事をしている人では、各々3割を超えている

乳がん検診の受診の有無について、就業状況別にみると、「過去2年以内に受けた」割合は、主に仕事をしている人が33.3%、家事などのほかに仕事をしている人が35.3%と各々3割を超えている。(表 -5-11)

表 -5-11 乳がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

	総 数	た 過 去 2 年 以 内 に 受 け	こ と が 2 年 以 上 前 に 受 け た	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (3,833)	28.5	16.7	47.1	1.3	6.5
労働力人口	100.0 (1,961)	33.3	15.3	44.9	0.7	5.9
就業者	100.0 (1,906)	33.6	15.4	44.6	0.6	6.0
主に仕事	100.0 (1,133)	33.3	12.4	47.4	0.4	6.7
家事などのほかに仕事	100.0 (714)	35.3	20.3	38.4	0.7	5.3
通学のかたわらに仕事	100.0 (33)	15.2	6.1	78.8	-	-
その他	100.0 (26)	23.1	19.2	50.0	7.7	-
仕事を探していた	100.0 (55)	23.6	12.7	56.4	3.6	3.6
非労働力人口	100.0 (1,825)	23.1	18.2	49.7	2.0	7.1
家事(専業)	100.0 (1,276)	27.2	19.4	46.2	1.2	6.0
通学のみ	100.0 (50)	6.0	-	84.0	2.0	8.0
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (499)	14.4	16.8	55.1	4.0	9.6

(3) 乳がん検診の受診の有無[複数回答] - 認知度[ピンクリボン運動]別

ピンクリボン運動について知っている人で、「過去2年以内に乳がん検診を受けた」割合は4割

乳がん検診の受診の有無について、認知度[ピンクリボン運動]別にみると「過去2年以内に受けた」人の割合は、ピンクリボン運動を知っている人は38.4%で、中身は知らないが言葉は聞いたことがある人(24.4%)、知らない人(17.7%)より高くなっている。(表 -5-12)

表 -5-12 乳がん検診の受診の有無[複数回答] - 認知度[ピンクリボン運動]別

	総 数	た 過 去 2 年 以 内 に 受 け	こ 2 年 が 以 上 前 に 受 け た	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (3,833)	28.5	16.7	47.1	1.3	6.5
知っている	100.0 (1,897)	<u>38.4</u>	17.3	40.8	0.5	3.2
中身は知らないが言葉は聞いたことがある	100.0 (501)	<u>24.4</u>	14.2	55.7	1.4	4.4
知らない	100.0 (1,230)	<u>17.7</u>	17.9	55.9	2.5	5.9

(4) 乳がん検診の検査方法[複数回答] - 年齢階級別

乳がん検診の検査方法について、年齢階級別にみると、「マンモグラフィ検査」の割合が40代女性は67.2%と高かった。20代、30代では、「乳房超音波(エコー)検査」の割合が他の年代と比較して高かった。(表 -5-13)

表 -5-13 乳がん検診の検査方法[複数回答] - 年齢階級別

	総 数	検 査 マン モ グ ラ フ イ	視 触 診 検 査	乳 房 超 音 波 (エ コ ー) 検 査	そ の 他	無 回 答
総数(女)	100.0 (1,729)	<u>58.0</u>	63.2	36.6	0.8	6.8
20～29歳	100.0 (56)	44.6	62.5	<u>66.1</u>	-	1.8
30～39歳	100.0 (256)	49.2	75.0	<u>53.5</u>	0.4	3.5
40～49歳	100.0 (436)	<u>67.2</u>	65.4	44.5	0.7	6.9
50～59歳	100.0 (337)	63.2	63.2	32.0	1.5	7.1
60～69歳	100.0 (389)	58.4	59.4	25.7	0.5	6.2
70～79歳	100.0 (204)	49.5	52.5	23.5	-	10.8
80歳以上	100.0 (45)	33.3	57.8	8.9	4.4	13.3
(再掲)40歳以上	100.0 (1,411)	60.2	61.1	32.2	0.9	7.5

5 子宮がん検診の受診の有無[複数回答]と検査方法[複数回答]

女性で子宮がん検診を「過去2年以内に受けた」人の割合は、32.0%であった。一方で、「受けたことがない」人の割合は、40.3%であった。(図 -5-9)

子宮がん検診を「過去2年以内に受けた」と「2年以上前に受けたことがある」と回答した人(1,993人)に、検査方法を聞いたところ、「細胞診検査(医師による採取)」が81.8%で最も高くなっている。(図 -5-10)

問 子宮がん検診の受診の有無と検査方法を選んでください。(女性のみ)

(注) がん検診については、健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。

図 -5-9 子宮がん検診の受診の有無[複数回答]

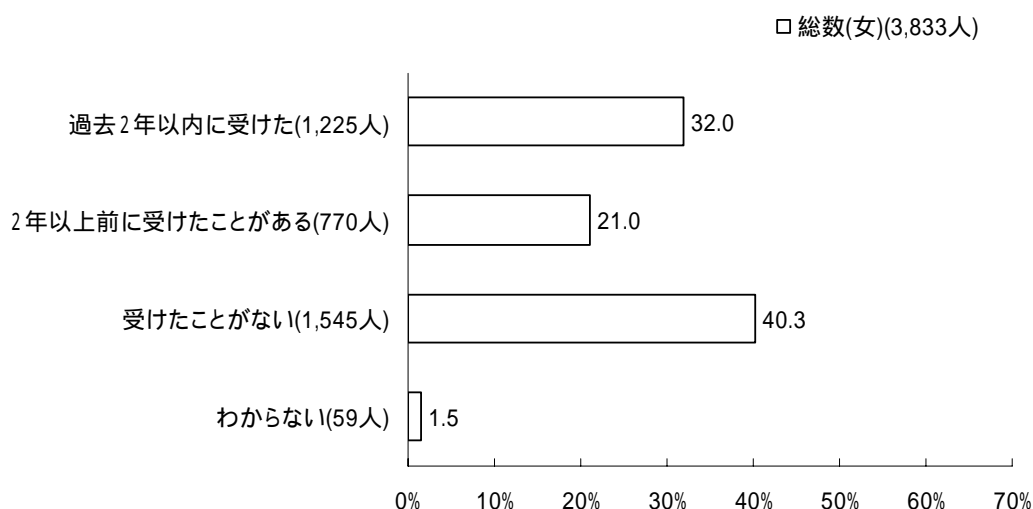
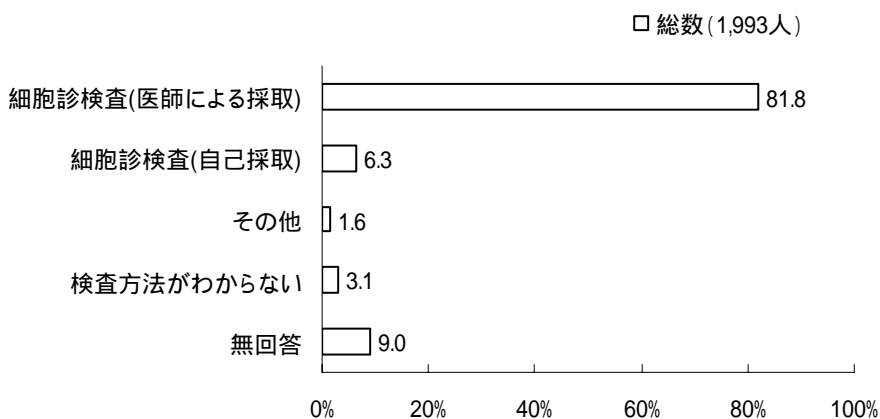


図 -5-10 子宮がん検診の検査方法[複数回答]



<参考> 子宮がん検診に関する国指針(「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」)

検査方法…細胞診(医師による採取)

対象者…20歳以上

受診間隔…2年に1回

(1) 子宮がん検診の受診の有無[複数回答] - 年齢階級別

過去2年以内に子宮がん検診を受けた人の割合は、30代、40代女性が高く5割

子宮がん検診の受診の有無について、年齢階級別にみると、「過去2年以内に受けた」の割合は、40代が最も高く51.9%、次いで30代の50.4%と、いずれも5割を超えている。(表 -5-14)

表 -5-14 子宮がん検診の受診の有無[複数回答] - 年齢階級別

	総 数	過 去 2 年 以 内 に 受 け た	と 2 年 以 上 前 に 受 け た こ と あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	無 回 答
総数(女)	100.0 (3,833)	32.0	20.1	40.3	1.5	6.2
20～29歳	100.0 (447)	23.7	4.0	62.9	1.6	7.8
30～39歳	100.0 (611)	50.4	12.9	31.3	1.3	4.1
40～49歳	100.0 (632)	51.9	21.7	23.9	0.2	2.5
50～59歳	100.0 (542)	41.7	27.5	26.2	0.4	4.4
60～69歳	100.0 (724)	25.3	27.5	39.6	1.4	6.2
70～79歳	100.0 (595)	9.9	25.2	51.9	2.5	10.4
80歳以上	100.0 (267)	4.5	13.9	65.5	5.6	10.5

(2) 子宮がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

過去2年以内に子宮がん検診を受けた人の割合は、主に仕事をしている人、家事などのほかに仕事をしているでは、各々約4割

子宮がん検診の受診の有無について、就業状況別にみると、「過去2年以内に受けた」の割合は、主に仕事をしている人が39.9%、家事などのほかに仕事をしている人が37.5%で、各々約4割となっている。(表 -5-15)

表 -5-15 子宮がん検診の受診の有無[複数回答] - 就業状況別

	総 数	過 去 2 年 以 内 に 受 け た	と 2 年 以 上 前 に 受 け た こ と あ る	受 け た こ と が な い	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (3,833)	32.0	20.1	40.3	1.5	6.2
労働力人口	100.0 (1,961)	38.0	18.2	37.7	0.8	5.5
就業者	100.0 (1,906)	38.2	18.2	37.4	0.7	5.6
主に仕事	100.0 (1,133)	39.9	14.7	39.5	0.6	5.5
家事などのほかに仕事	100.0 (714)	37.5	24.5	31.1	0.8	6.0
通学のかたわらに仕事	100.0 (33)	9.1	3.0	84.8	-	3.0
その他	100.0 (26)	19.2	15.4	61.5	3.8	-
仕事を探していた	100.0 (55)	30.9	18.2	47.3	1.8	1.8
非労働力人口	100.0 (1,825)	25.6	22.1	43.1	2.4	6.7
家事(専業)	100.0 (1,276)	31.7	24.0	37.1	1.4	5.9
通学のみ	100.0 (50)	10.0	-	80.0	2.0	8.0
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (499)	11.6	19.6	54.9	5.0	8.8

(3) 子宮がん検診の検査方法[複数回答] - 年齢階級別

子宮がん検診の検査方法について、年齢階級別にみると、すべての年代において「細胞診検査(医師による採取)」の割合が最も高くなっている。(表 -5-16)

表 -5-16 子宮がん検診の検査方法[複数回答] - 年齢階級別

	総 数	(細胞診検査 による採取)	(細胞診検査 自己採取)	その他	検査方法がわからな い	無 回 答
総数(女)	100.0 (1,993)	81.8	6.3	1.6	3.1	9.0
20～29歳	100.0 (124)	83.9	2.4	0.8	1.6	12.1
30～39歳	100.0 (387)	87.1	5.2	1.0	2.8	4.9
40～49歳	100.0 (464)	83.4	7.1	0.9	2.8	8.6
50～59歳	100.0 (374)	79.9	9.4	2.4	2.1	9.1
60～69歳	100.0 (382)	80.9	5.5	2.6	3.1	9.2
70～79歳	100.0 (209)	75.6	6.7	1.9	6.2	11.0
80歳以上	100.0 (49)	69.4	-	-	6.1	24.5

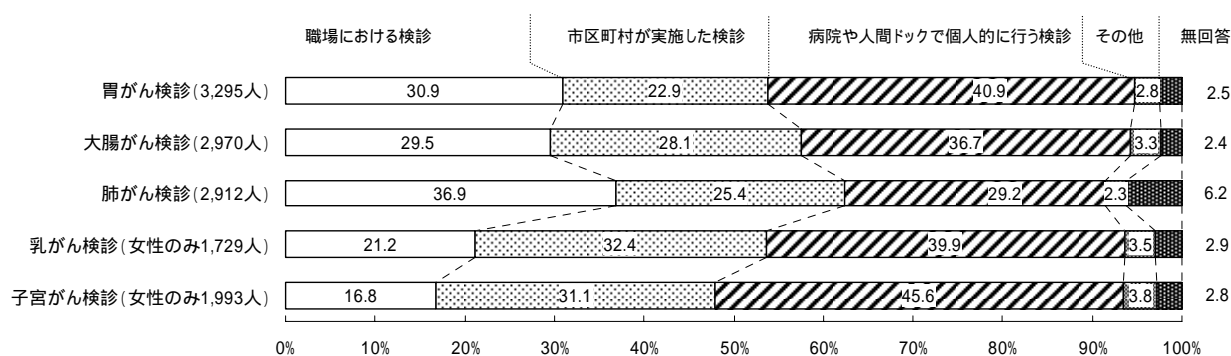
6 がん検診の受診機会

それぞれのがん検診の受診者に、受診機会を聞いたところ、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん検診で「病院や人間ドックで個人的に行う検診」を受けた人の割合が高くなっている。肺がん検診は「職場における検診」を受けた人の割合が36.9%と最も高くなっている。

乳がん、子宮がん検診は、胃がん、大腸がん、肺がん検診と比較して、「市区町村が実施した検診」を受けた人の割合が高く、「職場における検診」を受けた人の割合が低かった。(図 -5-11)

問 がん検診をどこで受けましたか。

図 -5-11 がん検診の受診機会



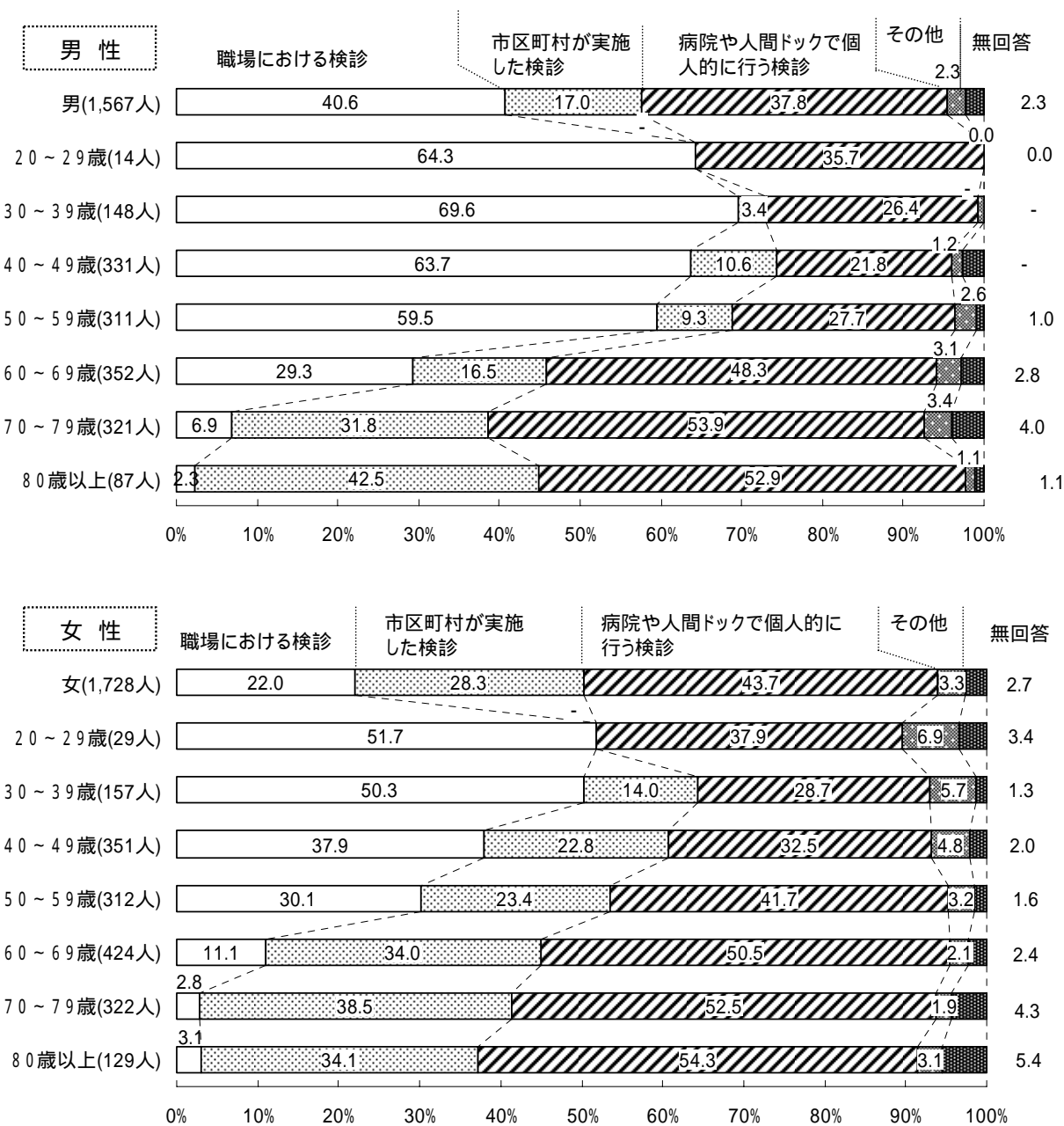
(1) 胃がん検診の受診機会 - 性・年齢階級別

「職場における検診」を受けた人の割合は、男性の方が女性より高い

胃がん検診の受診機会について、性・年齢階級別にみると、「職場における検診」を受けた人の割合は、男性 40.6%、女性 22.0% で、男性の方が 20 ポイント近く高くなっている。

男性の 20 代～50 代、女性の 20 代～30 代は「職場における検診」を受けた人の割合が高く、いずれも 5 割を超えている。(図 -5-12)

図 -5-12 胃がん検診の受診機会 - 性・年齢階級別



(2) 胃がん検診の受診機会 - 就業状況別

主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人が5割

胃がん検診の受診機会について、就業状況別にみると、主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人の割合が52.0%と最も高くなっている。(表 -5-17)

表 -5-17 胃がん検診の受診機会 - 就業状況別

	総 数	職 場 に お け る 検 診	市 区 町 村 が 実 施 し た 検 診	に 病 院 や 人 間 ド ク で 個 人 的 に 行 う 検 診	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (3,295)	30.9	22.9	40.9	2.8	2.5
労働力人口	100.0 (1,952)	45.7	16.1	33.5	2.4	2.3
就業者	100.0 (1,911)	45.7	16.0	33.6	2.4	2.3
主に仕事	100.0 (1,520)	52.0	12.4	31.3	2.0	2.3
家事などのほかに仕事	100.0 (346)	21.4	30.3	41.9	4.0	2.3
その他	100.0 (41)	22.0	26.8	46.3	2.4	2.4
仕事を探していた	100.0 (41)	43.9	24.4	26.8	4.9	-
非労働力人口	100.0 (1,303)	8.7	32.8	52.3	3.4	2.8
家事(専業)	100.0 (672)	12.1	32.4	48.7	4.5	2.4
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (628)	4.9	33.3	56.2	2.2	3.3

- ・労働力人口の就業者のうち、通学のかたわら仕事については、母集団が4人のため省略した。
- ・非労働力人口のうち、通学のみについては、母集団が3人のため省略した。

(3) 大腸がん検診の受診機会 - 性・年齢階級別

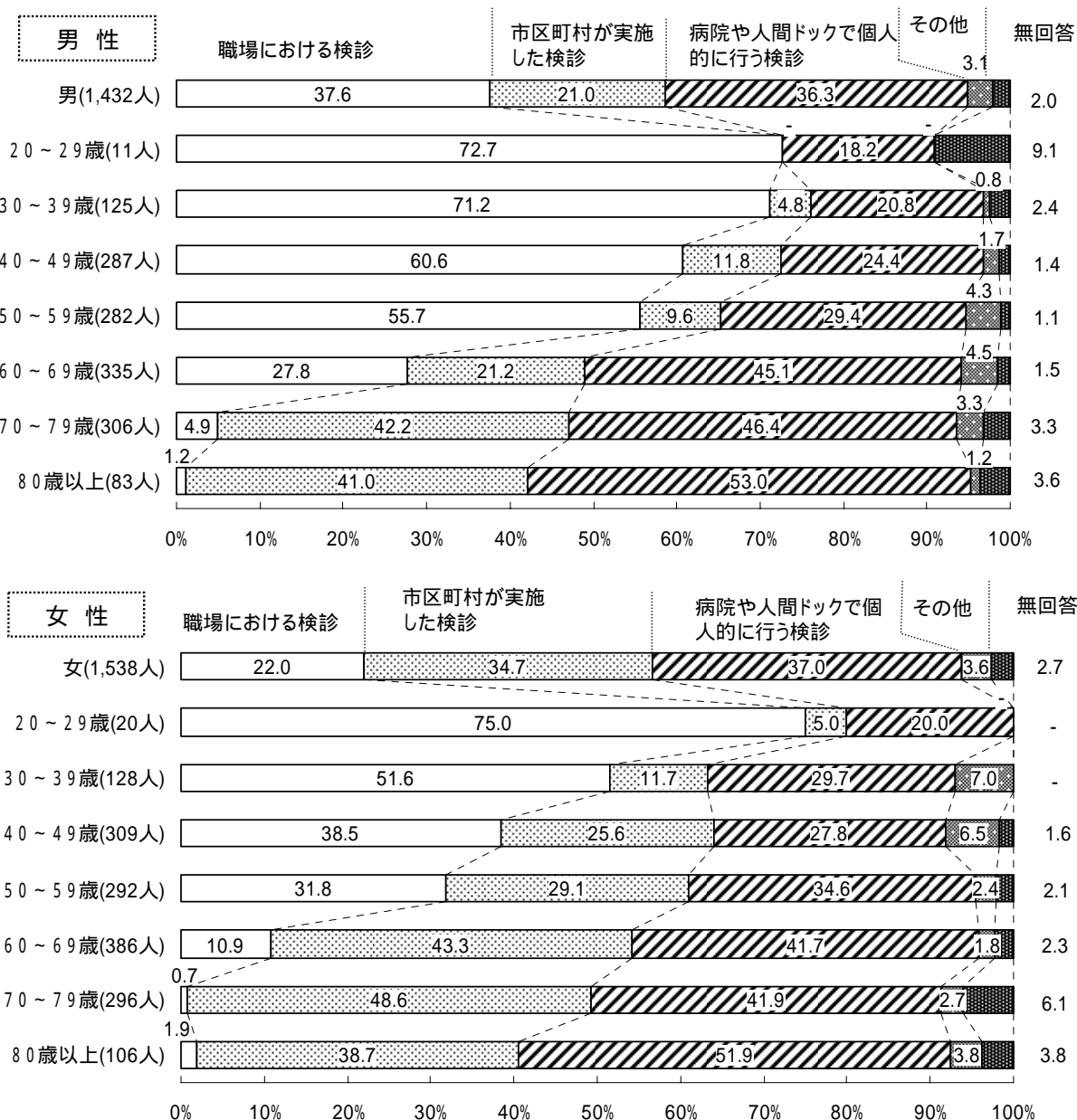
「職場における検診」を受けた人の割合は、男性の方が女性より高い

大腸がん検診の受診機会について、性・年齢階級別にみると、男性は、「職場における検診」を受けた人の割合が最も高く 37.6%、次いで「病院や人間ドックで個人的に行う検診」を受けた人の割合が 36.3%となっている。

女性は、「病院や人間ドックで個人的に行う検診」を受けた人の割合が最も高く 37.0%となっている。一方、「職場における検診」を受けた人の割合は 22.0%で、男性と比較すると男性の方が 15 ポイント以上高くなっている。

男性の 20 代～50 代、女性の 20 代～30 代は「職場における検診」を受けた人の割合が高く、いずれも 5 割を超えている。(図 -5-13)

図 -5-13 大腸がん検診の受診機会 - 性・年齢階級別



(4) 大腸がん検診の受診機会 - 就業状況別

主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人が5割

大腸がん検診の受診機会について、就業状況別にみると、主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人の割合が49.6%と最も高くなっている。(表 -5-18)

表 -5-18 大腸がん検診の受診機会 - 就業状況別

	総 数	職 場 に お け る 検 診	た 市 区 検 診 町 村 が 実 施 し	診 で 病 院 や 個 人 的 に 間 行 う ツ ク	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (2,970)	29.5	28.1	36.7	3.3	2.4
労働力人口	100.0 (1,758)	44.1	19.1	31.5	3.4	1.9
就業者	100.0 (1,720)	44.3	18.8	31.6	3.3	1.9
主に仕事	100.0 (1,377)	49.6	15.3	30.2	2.9	2.0
家事などのほかに仕事	100.0 (303)	24.1	32.3	36.3	5.6	1.7
その他	100.0 (38)	15.8	39.5	42.1	-	2.6
仕事を探していた	100.0 (38)	36.8	28.9	26.3	5.3	2.6
非労働力人口	100.0 (1,171)	8.0	41.3	44.3	3.2	3.1
家事(専業)	100.0 (597)	12.1	38.4	41.7	4.0	3.9
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (571)	3.9	44.5	46.9	2.5	2.3

- ・就業者のうち、通学のかたわら仕事については、母集団が2人のため省略した。
- ・非労働力人口のうち、通学のみについては、母集団が3人のため省略した。

(5) 肺がん検診の受診機会 - 性・年齢階級別

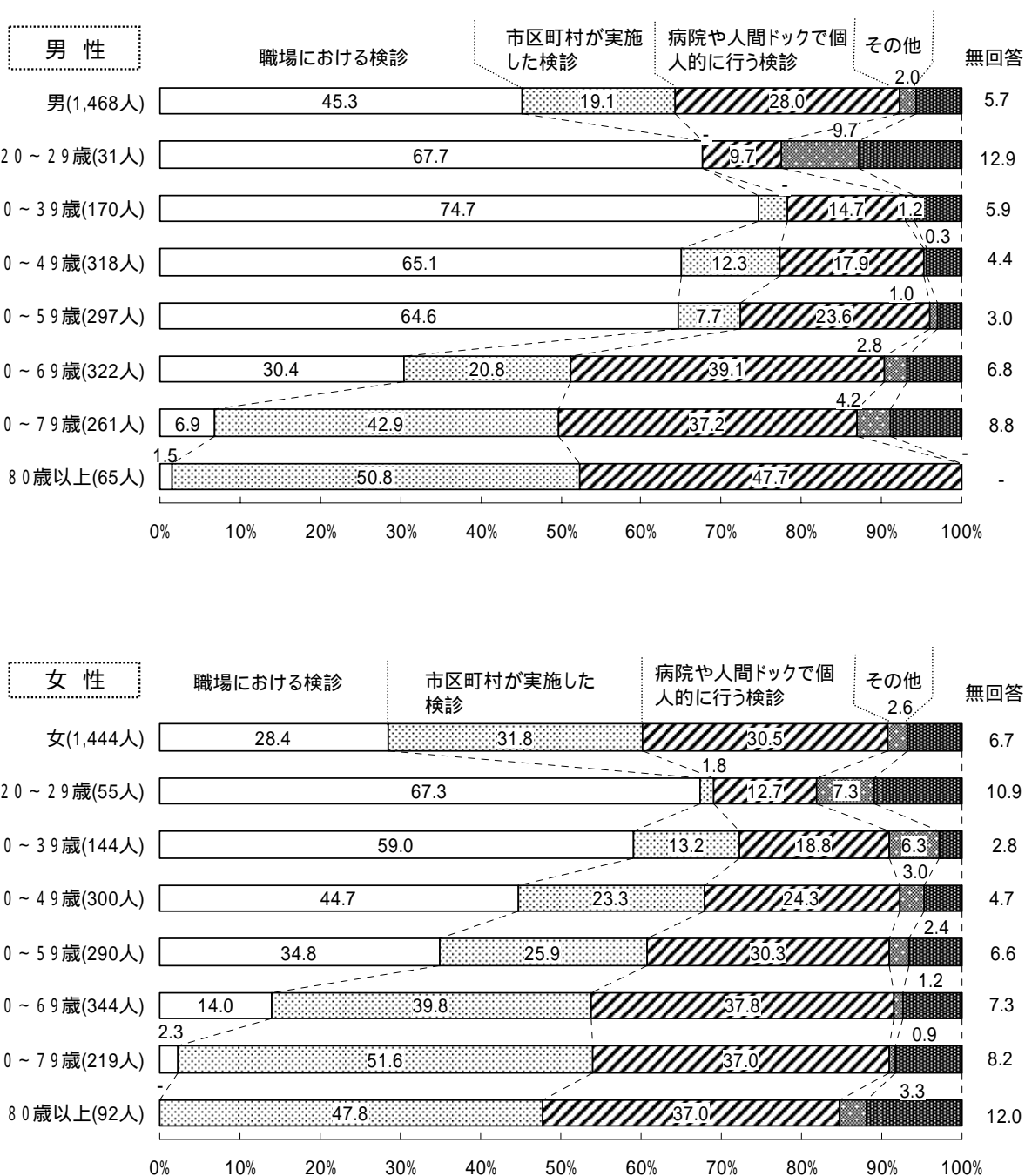
「職場における検診」を受けた人の割合は、男性の方が女性より高い

肺がん検診の受診機会について、性・年齢階級別にみると、「職場における検診」を受けた人の割合は、男性 45.3%、女性 28.4%で、男性の方が 15 ポイント以上高くなっている。

女性は「市区町村が実施した検診」を受けた人の割合が最も高く 31.8%、次いで「病院や人間ドックで個人的に行う検診」を受けた人が 30.5%となっている。

男性の 20 代～50 代、女性の 20 代～30 代は「職場における検診」を受けた人の割合が高く、いずれも 5 割を超えている。(図 -5-14)

図 -5-14 肺がん検診の受診機会 - 性・年齢階級別



(6) 肺がん検診の受診機会 - 就業状況別

主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人が6割

肺がん検診の受診機会について、就業状況別にみると、主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人の割合が58.2%と最も高くなっている。

その他（幼児、高齢、病気等）の人は、「市区町村が実施した検診」を受けた人が47.5%と最も高くなっている。（表 -5-19）

表 -5-19 肺がん検診の受診機会 - 就業状況別

	総 数	職 場 に お け る 検 診	市 区 町 村 が 実 施 し た 検 診	に 病 院 や 人 間 ド ク で 個 人 的 検 診	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (2,912)	36.9	25.4	29.2	2.3	6.2
労働力人口	100.0 (1,830)	52.5	15.8	24.4	1.6	5.7
就業者	100.0 (1,786)	52.6	15.6	24.6	1.6	5.7
主に仕事	100.0 (1,456)	58.2	12.2	23.1	1.2	5.3
家事などのほかに仕事	100.0 (299)	28.4	30.8	30.1	2.7	8.0
その他	100.0 (27)	22.2	25.9	44.4	3.7	3.7
仕事を探していた	100.0 (44)	47.7	25.0	18.2	2.3	6.8
非労働力人口	100.0 (1,047)	9.9	41.9	37.9	3.5	6.7
家事(専業)	100.0 (529)	15.5	37.1	38.2	4.0	5.3
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (510)	4.1	47.5	38.2	2.2	8.0

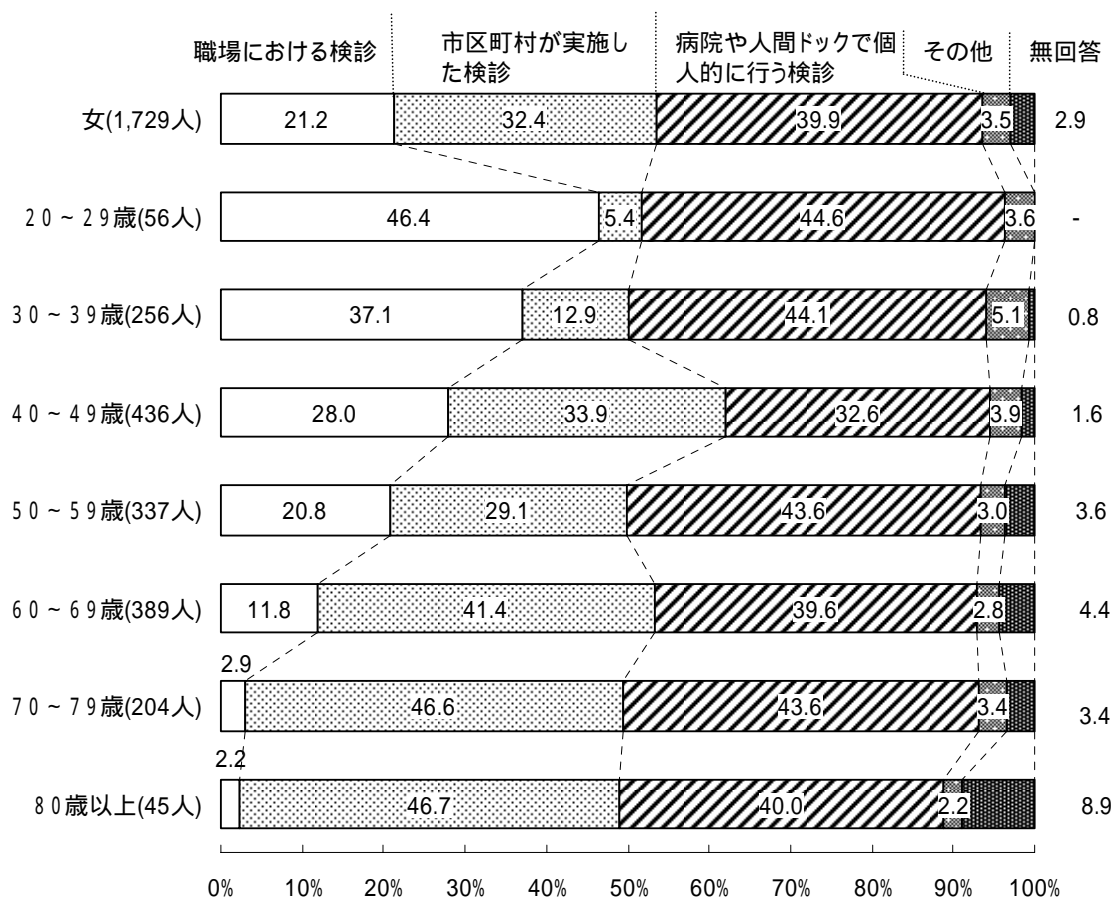
- ・就業者のうち、通学のかたわら仕事については、母集団が2人のため省略した。
- ・非労働力人口のうち、通学のみについては、母集団が8人のため省略した。

(7) 乳がん検診の受診機会 - 年齢階級別

「職場における検診」を受けた人の割合は、年齢が上がるにつれて低くなっている

乳がん検診の受診機会について、女性の年齢階級別にみると、年齢が上がるにつれて、「職場における検診」を受けた人の割合が低くなり、「市区町村が実施した検診」を受けた人の割合がおおむね高くなっている。(図 -5-15)

図 -5-15 乳がん検診の受診機会 - 年齢階級別



(8) 乳がん検診の受診機会 - 就業状況別

主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人が4割

乳がん検診の受診機会について、就業状況別にみると、主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人の割合が39.8%と最も高くなっている。

家事（専業）の人は、「病院や人間ドックで個人的に行う検診」を受けた人が44.9%、その他（幼児、高齢、病気等）の人は、「市区町村が実施した検診」を受けた人が45.5%と、それぞれ最も高くなっている。

「職場における検診」と「市区町村が実施した検診」についてみると、主に仕事をしている人は、「職場における検診」を受けた人の割合の方が高いが、他の就業状況では、「市区町村が実施した検診」を受けた人の割合の方が高い。（表 -5-20）

表 -5-20 乳がん検診の受診機会 - 就業状況別

	総 数	職 場 に お け る 検 診	市 区 町 村 が 実 施 し た 検 診	に 病 院 や 人 間 ド ッ ク で 個 人 的 に 行 う 検 診	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,729)	21.2	32.4	39.9	3.5	2.9
労働力人口	100.0 (950)	30.3	28.7	36.5	2.2	2.2
就業者	100.0 (930)	30.3	28.1	37.1	2.3	2.3
主に仕事	100.0 (515)	<u>39.8</u>	<u>22.1</u>	33.6	1.7	2.7
家事などのほかに仕事	100.0 (397)	<u>18.9</u>	<u>35.5</u>	41.3	2.5	1.8
その他	100.0 (11)	<u>9.1</u>	<u>45.5</u>	45.5	-	-
仕事を探していた	100.0 (20)	<u>30.0</u>	<u>60.0</u>	10.0	-	-
非労働力人口	100.0 (753)	10.1	36.9	44.2	5.0	3.7
家事（専業）	100.0 (594)	<u>11.1</u>	<u>34.5</u>	<u>44.9</u>	5.6	3.9
その他（幼児、高齢、病気等）	100.0 (156)	<u>6.4</u>	<u>45.5</u>	41.7	3.2	3.2

- ・就業者のうち、通学のかたわらに仕事については、母集団が7人のため省略した。
- ・非労働力人口のうち、通学のみについては、母集団が3人のため省略した。

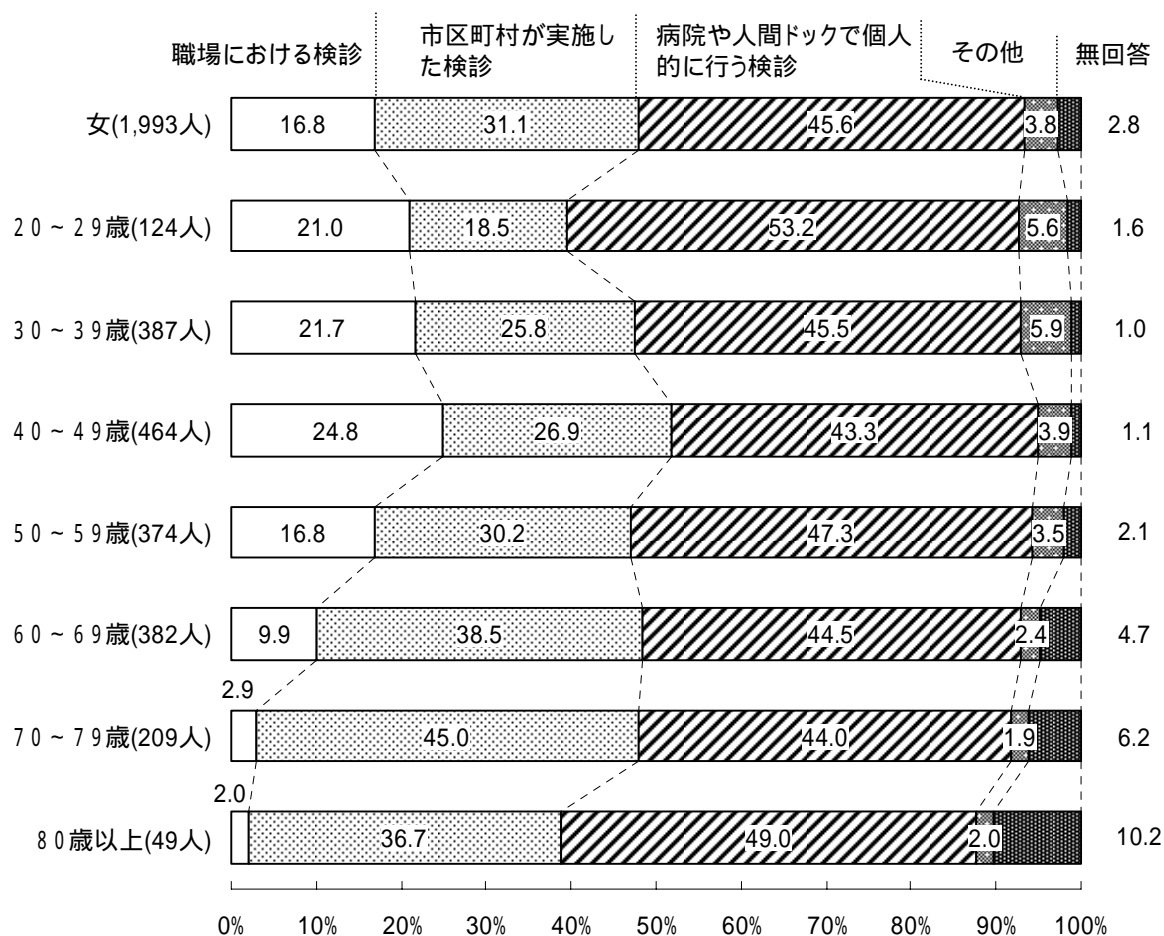
(9) 子宮がん検診の受診機会 - 年齢階級別

「市区町村が実施した検診」を受けた人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっている

子宮がん検診の受診機会について、女性の年齢階級別にみると、70代を除くすべての年代で「病院や人間ドックで個人的に行う検診」を受けた人の割合が最も高くなっている（約43%～54%）。

年齢が上がるにつれて、「市区町村が実施した検診」を受けた人の割合がおおむね高くなっている。（図 -5-16）

図 -5-16 子宮がん検診の受診機会 - 年齢階級別



(10) 子宮がん検診の受診機会 - 就業状況別

就業の状況にかかわらず、「病院や人間ドックで個人的に行う検診」を受けた人の割合が最も高い

子宮がん検診の受診機会について、就業状況別にみると、どの就業状況であっても「病院や人間ドックで個人的に行う検診」を受けた人の割合が最も高くなっている(約 39% ~ 51%)。

「職場における検診」と「市区町村が実施した検診」についてみると、主に仕事の人では、「職場における検診」を受けた人の割合の方が高いが、他の就業状況では、「市区町村が実施した検診」を受けた人の割合の方が高い。(表 -5-21)

表 -5-21 子宮がん検診の受診機会 - 就業状況別

	総 数	職 場 に お け る 検 診	市 区 町 村 が 実 施 し た 検 診	病 院 や 人 間 ド ック で 個 人 的 に 行 う 検 診	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,993)	16.8	31.1	45.6	3.8	2.8
労働力人口	100.0 (1,100)	24.0	28.8	41.8	3.5	1.8
就業者	100.0 (1,073)	24.1	28.9	41.7	3.4	1.9
主に仕事	100.0 (617)	<u>31.9</u>	<u>24.0</u>	<u>39.4</u>	3.1	1.6
家事などのほかに仕事	100.0 (443)	<u>13.8</u>	<u>35.2</u>	<u>44.7</u>	4.1	2.3
仕事を探していた	100.0 (27)	<u>18.5</u>	<u>25.9</u>	<u>48.1</u>	7.4	-
非労働力人口	100.0 (871)	7.7	34.1	50.3	4.0	3.9
家事(専業)	100.0 (710)	<u>8.5</u>	<u>32.8</u>	<u>51.4</u>	3.9	3.4
その他(幼児、高齢、病気等)	100.0 (156)	<u>4.5</u>	<u>39.1</u>	<u>46.8</u>	3.8	5.8

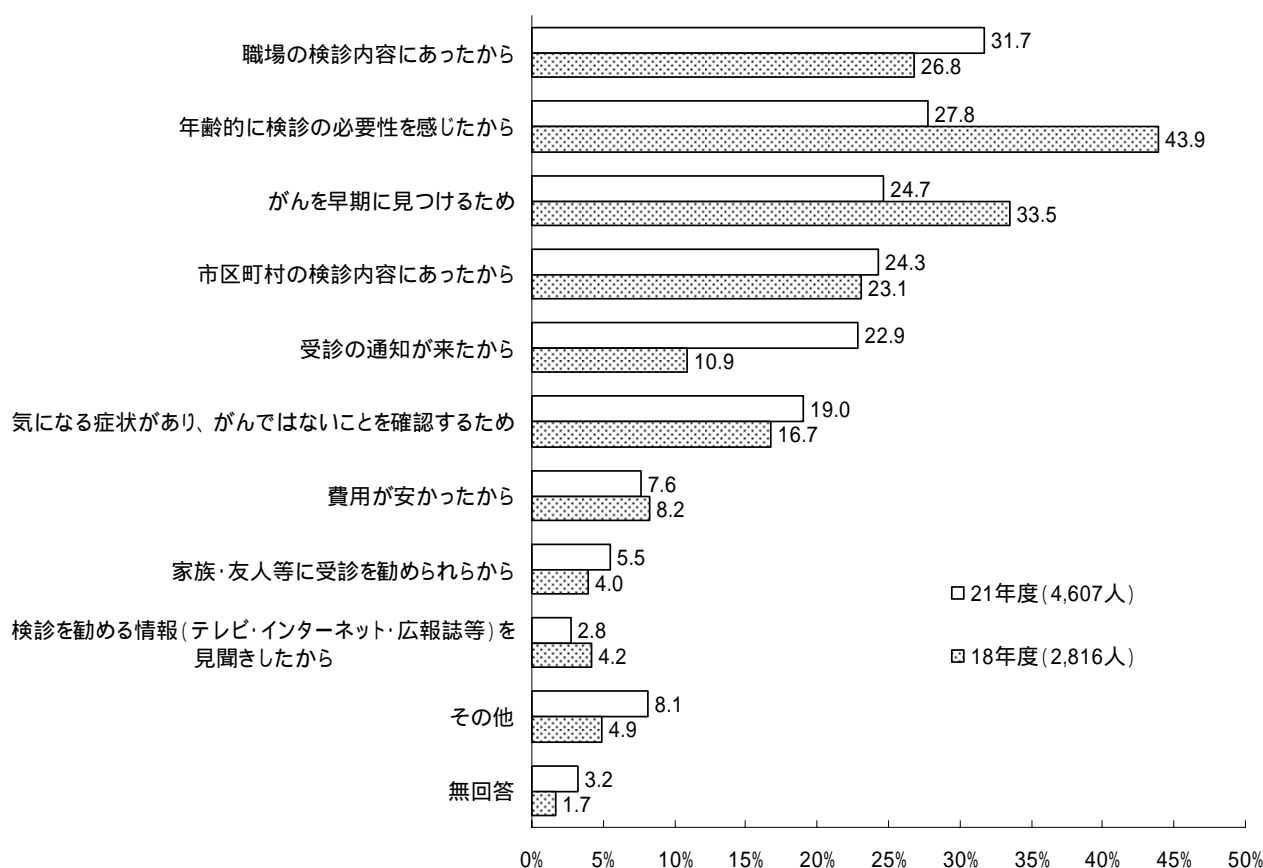
- ・就業者のうち、通学のかたわら仕事については、母集団が4人のため省略した。
- ・就業者のうち、その他については、母集団が9人のため省略した。
- ・非労働力人口のうち、通学のみについては、母集団が5人のため省略した。

7 がん検診の受診理由[複数回答]

いずれかのがん検診を受けた人(4,607人)に、がん検診を受けた理由を聞いたところ、「職場の検診内容にあったから」の割合が最も高く31.7%、次いで「年齢的に検診の必要性を感じたから」が27.8%、「がんを早期に見つけるため」が24.7%、「市区町村の検診内容にあったから」が24.3%であった。(図 -5-17)

問 がん検診を受けた理由は何ですか。

図 -5-17 がん検診の受診理由[複数回答]



(注) その他の意見(計 365 件)としてとりあげられた主なものは、以下のとおりである。

妊娠(82 件)

他の病気の検査で(68 件)

医者のすすめ(60 件)

家族ががんになった人がいる(13 件)

(1) がん検診の受診理由[複数回答] - 性・年齢階級別

がん検診の受診理由は、男性は「職場の検診内容にあったから」、女性は「年齢的に検診の必要性を感じたから」が最も高い

がん検診の受診理由について、性・年齢階級別にみると、男性は「職場の検診内容にあったから」が43.9%と最も高く、次いで「年齢的に検診の必要性を感じたから」が22.2%となっている。特に30代～50代男性では、「職場の検診内容にあったから」が6割～7割と高かった。

女性は、「年齢的に検診の必要性を感じたから」が最も高く31.7%、次いで、「市区町村の検診内容にあったから」が28.7%となっている。特に40代、50代女性では、「年齢的に検診の必要性を感じたから」が約4割と高かった。(表 -5-22)

表 -5-22 がん検診の受診理由[複数回答] - 性・年齢階級別

	総 数	ら 職 場 の 検 診 内 容 に あ っ た か	じ 年 齢 的 に 検 診 の 必 要 性 を 感 じ た か	が ン を 早 期 に 見 つ け る た め	た 市 区 町 村 の 検 診 内 容 に あ っ た	受 診 の 通 知 が 来 た か	め だ は な い こ と を 確 認 す る た め	に 気 な る 症 状 が あ り 、 が ん	費 用 が 安 か っ た か	ら 家 族 ・ 友 人 等 に 受 診 を 勧 め ら れ た か	誌 等 (等) を 見 聞 き し た か	検 診 を 勧 め る 情 報 (テ レ ビ ・ イ ン タ ー ネ ッ ト ・ 広 報	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (4,607)	31.7	27.8	24.7	24.3	22.9	19.0	7.6	5.5	2.8	8.1	3.2		
男	100.0 (1,885)	<u>43.9</u>	<u>22.2</u>	20.4	18.1	16.9	12.8	5.1	3.1	1.7	6.0	3.8		
20～29歳	100.0 (36)	58.3	-	-	-	8.3	11.1	-	5.6	-	8.3	13.9		
30～39歳	100.0 (204)	<u>71.1</u>	9.8	6.9	4.4	13.2	9.3	4.4	1.5	0.5	1.5	3.9		
40～49歳	100.0 (385)	<u>66.8</u>	14.3	13.8	11.7	11.4	7.8	5.2	2.3	1.0	2.6	3.1		
50～59歳	100.0 (359)	<u>63.2</u>	22.6	22.6	8.6	12.0	8.9	3.9	3.1	1.1	5.0	2.5		
60～69歳	100.0 (416)	33.9	31.7	25.7	20.2	19.2	14.9	6.0	3.8	2.2	7.9	2.9		
70～79歳	100.0 (378)	8.5	26.5	28.3	36.0	24.6	19.0	6.9	4.0	2.6	9.5	5.3		
80歳以上	100.0 (103)	2.9	30.1	20.4	35.0	27.2	21.4	2.9	2.9	3.9	8.7	3.9		
女	100.0 (2,722)	23.3	<u>31.7</u>	27.6	<u>28.7</u>	27.1	23.4	9.3	7.1	3.5	9.5	2.8		
20～29歳	100.0 (170)	32.9	12.4	17.6	8.8	15.9	26.5	7.6	8.2	2.9	25.9	4.7		
30～39歳	100.0 (433)	34.6	31.2	25.2	17.8	20.3	21.9	7.6	10.2	5.8	18.2	0.7		
40～49歳	100.0 (536)	37.1	<u>42.2</u>	28.2	22.8	30.0	22.4	10.1	6.3	3.2	8.0	1.1		
50～59歳	100.0 (438)	31.1	<u>40.6</u>	32.0	27.4	28.1	24.4	10.7	8.0	3.4	5.9	2.3		
60～69歳	100.0 (553)	13.2	30.9	33.1	38.3	32.4	25.0	11.8	5.2	3.6	5.1	2.9		
70～79歳	100.0 (417)	3.8	24.7	24.9	39.3	31.2	20.9	7.2	6.7	3.1	5.8	4.8		
80歳以上	100.0 (168)	3.0	15.5	19.0	40.5	17.3	24.4	5.4	6.0	0.6	8.9	7.1		

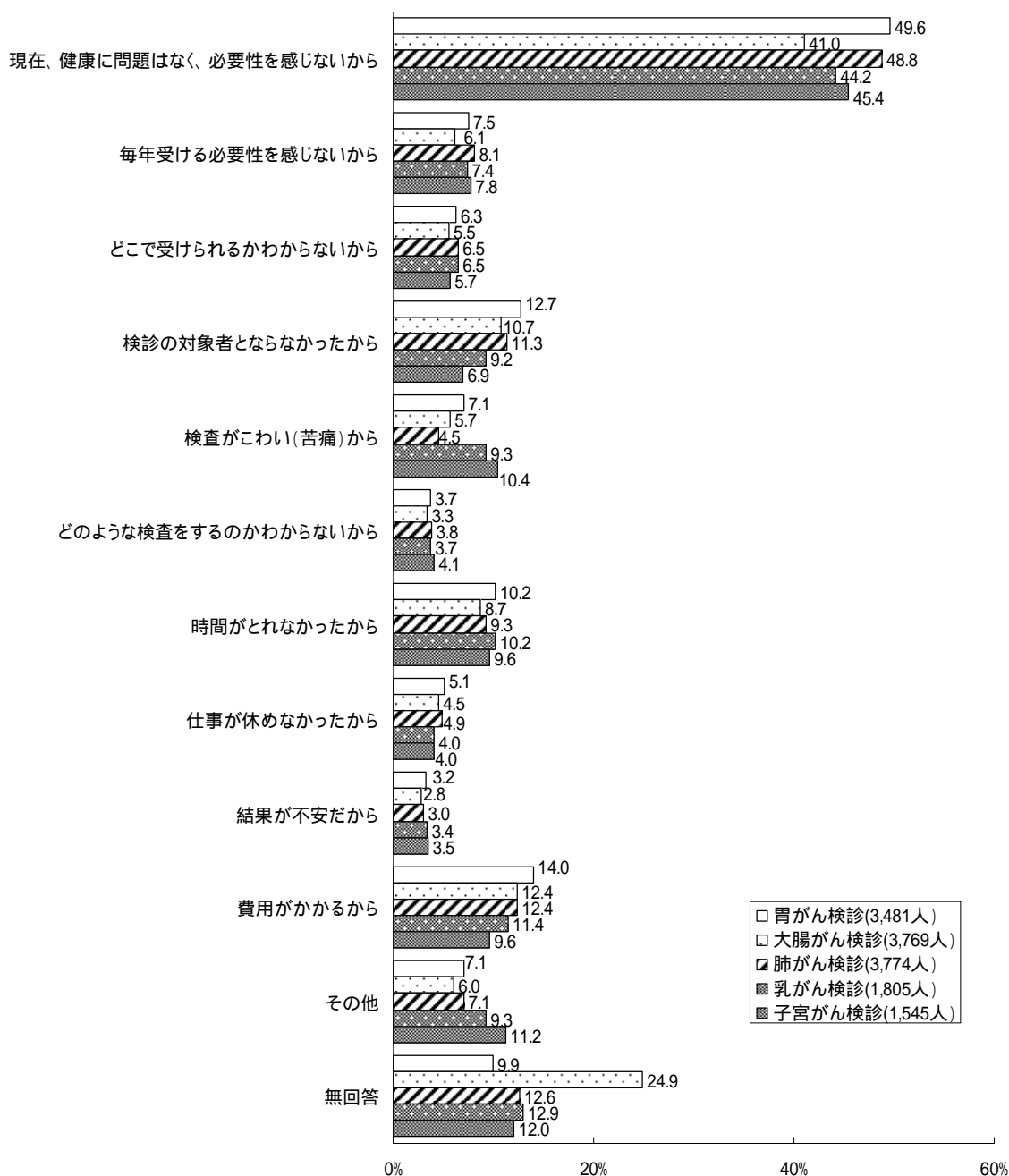
8 がん検診を受けなかった理由[複数回答]

がん検診を受けなかった理由について聞いたところ、すべての検診で「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が最も高くなっている(約41%~50%)。

次いで、子宮がん検診以外の検診では「費用がかかるから」となっている(約11%~14%)。子宮がん検診では、「検査がこわい(苦痛)から」(10.4%)が続いている。(図 -5-18)

問 がん検診を受けなかった理由は何ですか。

図 -5-18 がん検診を受けなかった理由[複数回答]



(1) 胃がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 性・年齢階級別

「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が、男女とも最も高い

胃がん検診を受けなかった理由について、性・年齢階級別でみると「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が男女とも最も高く、次いで、「費用がかかるから」、「検診の対象者とならなかったから」であった。

「検査がこわい(苦痛)から」の割合は男性3.4%、女性10.4%で、女性の方が高かった。

また、「時間がとれなかったから」の割合が、40代男性(19.3%)、50代男性(22.5%)、40代女性(19.3%)で高かった。(表 -5-23)

表 -5-23 胃がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 性・年齢階級別

	総数	現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから	から毎年受ける必要性を感じない	いどこで受けられるかわからな	かから検診の対象者とならなかった	検査がこわい(苦痛)から	からのような検査をするのかわ	時間がとれなかったから	仕事が終わらなかったから	結果が不安だから	費用がかかるから	その他	無回答
総数	100.0 (3,481)	49.6	7.5	6.3	12.7	7.1	3.7	10.2	5.1	3.2	14.0	7.1	9.9
男	100.0 (1,657)	50.3	7.7	6.0	14.5	3.4	3.0	10.9	6.5	3.3	14.5	7.1	9.2
20～29歳	100.0 (350)	52.9	7.4	7.1	22.0	1.1	2.9	6.0	4.9	1.1	13.7	5.1	9.1
30～39歳	100.0 (404)	46.3	6.2	9.9	23.8	2.5	2.2	12.4	6.9	1.5	19.8	5.4	6.2
40～49歳	100.0 (233)	43.8	6.9	7.7	9.9	5.2	3.0	19.3	12.9	2.6	17.2	7.7	9.4
50～59歳	100.0 (182)	46.2	8.2	3.3	6.6	4.4	5.5	22.5	12.6	8.8	18.7	8.2	8.8
60～69歳	100.0 (227)	55.9	8.4	3.5	4.4	6.2	3.1	8.4	4.0	7.0	10.6	6.6	9.7
70～79歳	100.0 (171)	54.4	12.3	0.6	9.4	4.1	3.5	2.3	0.6	2.9	7.0	10.5	13.5
80歳以上	100.0 (84)	63.1	6.0	1.2	7.1	1.2	-	-	-	-	2.4	13.1	13.1
女	100.0 (1,824)	49.0	7.2	6.5	11.0	10.4	4.3	9.5	3.8	3.2	13.4	7.1	10.5
20～29歳	100.0 (372)	51.1	8.6	11.0	18.8	6.2	7.3	5.9	3.0	1.1	16.4	5.6	8.6
30～39歳	100.0 (411)	45.3	5.1	9.5	18.0	9.2	5.6	9.7	3.2	2.4	19.7	6.1	11.9
40～49歳	100.0 (254)	39.4	6.3	7.5	7.1	17.3	3.9	19.3	4.7	5.5	14.6	6.3	9.8
50～59歳	100.0 (200)	47.0	8.5	2.5	8.5	15.5	2.5	15.5	8.5	5.0	13.0	6.0	10.5
60～69歳	100.0 (254)	51.2	8.3	2.8	2.4	11.8	1.2	9.1	5.5	3.9	8.7	10.6	9.8
70～79歳	100.0 (220)	59.1	6.8	2.3	5.0	9.1	4.5	2.7	0.5	4.5	6.4	8.2	10.5
80歳以上	100.0 (104)	56.7	8.7	2.9	4.8	2.9	1.0	1.0	-	-	2.9	10.6	14.4
(再掲) 総数 40歳以上	100.0 (1,929)	50.4	8.0	3.8	6.4	8.8	3.1	11.4	5.5	4.5	11.1	8.3	10.5
男 40歳以上	100.0 (897)	51.2	8.5	3.8	7.5	4.7	6.6	24.4	11.9	9.7	12.5	8.6	10.5
女 40歳以上	100.0 (1,032)	49.7	7.6	3.8	5.5	12.4	2.8	10.7	4.3	4.3	9.9	8.1	10.6

(2) 大腸がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 性・年齢階級別

「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が、男女とも最も高い

大腸がん検診を受けなかった理由について、性・年齢階級別でみると「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が男女とも最も高く、次いで、「費用がかかるから」、「検診の対象者とならなかったから」であった。

「検査がこわい(苦痛)から」の割合は男性 3.7%、女性 9.7%と、女性の方が高くなっている。

また、「時間がとれなかったから」の割合が、40代男性(18.5%)、50代男性(19.3%)、40代女性(18.0%)で高かった。(表 -5-24)

表 -5-24 大腸がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 性・年齢階級別

	総数	現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから	毎年受ける必要性を感じないから	いどこで受けられるかわからないから	検診の対象者とならなかったから	検査がこわい(苦痛)から	どのような検査をするのかわからないから	時間がとれなかったから	仕事が終わらなかったから	結果が不安だから	費用がかかるから	その他	無回答
総数	100.0 (3,769)	47.8	7.8	6.4	12.3	6.9	4.1	9.9	5.2	3.2	13.4	7.4	11.2
男	100.0 (1,773)	48.6	7.9	6.0	14.0	3.7	3.1	10.9	6.8	3.3	14.5	7.1	10.4
20~29歳	100.0 (349)	53.3	7.4	7.2	20.9	0.9	2.9	6.0	4.3	1.1	14.0	5.2	9.5
30~39歳	100.0 (423)	46.8	6.4	9.7	23.2	2.1	2.4	12.3	7.1	1.7	19.4	5.2	7.1
40~49歳	100.0 (275)	41.5	8.0	8.4	10.9	5.5	2.9	18.5	12.4	3.6	17.8	7.3	9.8
50~59歳	100.0 (207)	44.0	6.8	3.4	6.3	4.3	4.8	19.3	12.1	6.8	18.8	10.1	12.6
60~69歳	100.0 (243)	53.1	8.6	2.9	4.9	6.6	3.3	8.6	5.8	6.6	9.5	6.6	11.1
70~79歳	100.0 (187)	50.3	11.2	1.1	8.0	5.9	4.3	3.7	1.1	2.7	5.9	9.6	15.0
80歳以上	100.0 (83)	57.8	9.6	1.2	8.4	1.2	-	-	-	1.2	3.6	12.0	15.7
女	100.0 (1,996)	47.1	7.7	6.8	10.8	9.7	5.1	9.0	3.8	3.1	12.4	7.7	11.9
20~29歳	100.0 (383)	49.9	8.9	11.7	19.1	6.0	7.8	6.3	3.1	1.0	16.7	5.7	8.6
30~39歳	100.0 (435)	42.1	4.8	9.9	19.3	9.0	6.2	9.7	3.0	2.3	19.5	6.4	13.3
40~49歳	100.0 (294)	40.5	6.1	8.2	6.1	14.6	5.4	18.0	6.1	6.1	12.9	7.8	12.9
50~59歳	100.0 (218)	47.7	9.2	2.3	6.4	15.6	3.7	12.4	6.9	3.7	10.6	6.4	11.9
60~69歳	100.0 (288)	48.3	7.6	2.8	3.5	10.4	2.4	8.0	4.9	3.5	6.9	10.8	12.2
70~79歳	100.0 (237)	54.9	9.3	2.5	4.6	8.4	4.2	3.4	0.8	3.8	5.9	8.9	11.8
80歳以上	100.0 (130)	53.1	11.5	3.8	3.8	3.8	2.3	0.8	-	1.5	2.3	11.5	13.8
(再掲) 総数 40歳以上	100.0 (2,162)	48.0	8.5	4.1	6.2	8.5	3.6	10.7	5.7	4.3	10.3	8.7	12.3
男 40歳以上	100.0 (995)	47.8	8.6	4.0	7.7	5.2	3.4	12.0	7.5	4.6	12.6	8.5	12.2
女 40歳以上	100.0 (1,167)	48.1	8.3	4.1	5.0	11.3	3.8	9.6	4.2	4.0	8.4	8.9	12.4

(3) 肺がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 性・年齢階級別

「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が、男女とも最も高い

肺がん検診を受けなかった理由について、性・年齢階級別でみると「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が男女とも最も高く、次いで、「費用がかかるから」、「検診の対象者とならなかったから」であった。

また、「時間がとれなかったから」の割合が、40代男性(18.4%)、50代男性(22.3%)、40代女性(16.8%)で高かった。(表 -5-25)

表 -5-25 肺がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 性・年齢階級別

	総 数	現 在 、 健 康 に 問 題 は な く 、 必 要 性 を 感 じ な い か ら	毎 年 受 け る 必 要 性 を 感 じ な い か ら	い ど こ で 受 け ら れ る か わ か ら な い か ら	検 診 の 対 象 者 と な ら な か っ た か ら	検 査 が こ わ い (苦 痛) か ら	ど の よ う な 検 査 を す る の か わ か ら な い か ら	時 間 が と れ な か っ た か ら	仕 事 が 休 め な か っ た か ら	結 果 が 不 安 だ か ら	費 用 が か か る か ら	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (3,774)	48.8	8.1	6.5	11.3	4.5	3.8	9.3	4.9	3.0	12.4	7.1	12.6
男	100.0 (1,723)	49.3	8.2	6.2	12.7	3.0	2.7	10.6	6.5	3.1	13.5	6.7	12.0
20～29歳	100.0 (328)	54.0	7.9	7.0	20.4	0.9	3.4	6.1	4.6	1.2	14.9	5.2	9.1
30～39歳	100.0 (384)	47.7	5.5	10.7	21.9	1.8	1.8	13.0	6.8	1.6	19.8	5.2	6.5
40～49歳	100.0 (239)	43.5	8.4	8.8	8.4	4.2	2.9	18.4	13.8	3.3	15.5	6.3	12.6
50～59歳	100.0 (193)	45.1	8.3	3.6	6.2	3.1	3.1	22.3	12.4	6.7	15.5	7.3	12.4
60～69歳	100.0 (250)	55.2	9.6	3.2	4.4	6.0	3.2	6.8	4.8	6.4	9.6	6.4	12.0
70～79歳	100.0 (224)	48.2	11.2	1.8	7.1	3.6	2.7	3.1	0.9	2.2	5.4	9.4	21.0
80歳以上	100.0 (100)	51.0	9.0	2.0	9.0	2.0	1.0	-	-	-	3.0	12.0	20.0
女	100.0 (2,051)	48.5	7.9	6.8	10.0	5.8	4.8	8.3	3.6	2.9	11.5	7.5	13.1
20～29歳	100.0 (347)	51.3	9.2	12.1	17.9	4.6	7.5	6.6	3.5	1.2	17.0	5.5	8.1
30～39歳	100.0 (414)	44.7	5.6	11.4	17.9	5.8	6.0	9.2	2.9	2.4	20.3	6.3	12.3
40～49歳	100.0 (297)	40.7	7.1	7.1	6.4	9.8	5.1	16.8	4.7	5.7	11.8	8.4	13.8
50～59歳	100.0 (214)	45.3	9.8	1.9	7.9	7.0	3.7	12.6	8.9	4.7	10.3	6.5	15.0
60～69歳	100.0 (323)	51.7	6.8	3.4	3.4	7.1	3.1	7.1	4.3	3.1	6.5	9.9	12.4
70～79歳	100.0 (308)	54.9	9.7	3.9	5.8	2.6	3.2	2.3	0.6	2.6	3.9	8.1	15.6
80歳以上	100.0 (137)	52.6	9.5	2.2	3.6	2.9	3.6	0.7	-	0.7	2.2	9.5	18.2
(再掲) 総数 40歳以上	100.0 (2,285)	48.8	8.8	4.1	6.0	5.3	3.3	9.6	5.3	3.9	8.7	8.2	14.7
男 40歳以上	100.0 (1,006)	48.5	9.3	4.2	6.8	4.1	2.8	11.0	7.1	4.2	10.5	7.8	15.0
女 40歳以上	100.0 (1,279)	48.9	8.4	4.0	5.5	6.2	3.8	8.4	3.8	3.6	7.3	8.5	14.5

(4) 乳がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 年齢階級別

「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が、どの年代も最も高い

乳がん検診を受けなかった理由について、女性の年齢階級別でみると「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合がどの年代でも最も高かった。(約30%~56%)

40代女性では、「検査がこわい(苦痛)から」(17.1%)、「時間がとれなかったから」(27.1%)の割合が高かった。(表 -5-26)

表 -5-26 乳がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 年齢階級別

	総数	現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから	毎年受ける必要性を感じないから	どこで受けられるかわからないから	たかから対象者とならなかったから	検査がこわい(苦痛)から	わからないから	どのような検査をするのか	時間がとれなかったから	仕事が休めなかったから	結果が不安だから	費用がかかるから	その他	無回答
総数(女)	100.0 (1,805)	44.2	7.4	6.5	9.2	9.3	3.7	10.2	4.0	3.4	11.4	9.3	12.9	
20~29歳	100.0 (346)	41.6	8.4	13.6	19.7	7.2	6.6	7.8	4.0	2.6	17.3	6.9	9.0	
30~39歳	100.0 (312)	30.8	5.4	10.3	18.6	11.5	3.8	14.1	4.8	4.2	20.8	8.7	12.5	
40~49歳	100.0 (181)	38.7	4.4	7.2	2.2	17.1	3.3	27.1	8.3	6.1	11.6	11.0	7.7	
50~59歳	100.0 (181)	45.3	8.8	3.9	5.5	11.6	3.3	17.1	8.8	4.4	13.3	7.7	11.0	
60~69歳	100.0 (283)	49.5	5.7	3.2	1.4	9.5	2.1	7.8	3.9	3.9	7.1	11.3	13.8	
70~79歳	100.0 (318)	55.7	8.2	2.2	4.4	6.9	3.1	2.8	0.3	2.8	4.1	9.7	15.7	
80歳以上	100.0 (177)	48.6	11.3	1.1	4.5	2.8	1.7	0.6	-	-	1.7	10.7	22.0	
(再掲) 40歳以上	100.0 (1,140)	48.7	7.5	3.3	3.5	9.3	2.7	9.8	3.8	3.4	7.1	10.2	14.2	

(5) 子宮がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 年齢階級別

「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が、どの年代も最も高い

子宮がん検診を受けなかった理由について、女性の年齢階級別でみると「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合がどの年代でも最も高くなっている。

40代女性では、「検査がこわい(苦痛)から」(20.5%)、「時間がとれなかったから」(22.5%)の割合が高かった。(表 -5-27)

表 -5-27 子宮がん検診を受けなかった理由[複数回答] - 年齢階級別

	総 数	現在、健康に問題はなく、 必要性を感じないから	毎年受ける必要性を感じな いから	などで受けられるかわから ないから	検診の対象者とならなかつ たから	検査がこわい(苦痛)から	どのような検査をするのか わからないから	時間がとれなかったから	仕事が休めなかったから	結果が不安だから	費用がかかるから	その他	無回 答
総数(女)	100.0 (1,545)	45.4	7.8	5.7	6.9	10.4	4.1	9.6	4.0	3.5	9.6	11.2	12.0
20～29歳	100.0 (281)	45.2	8.2	12.1	15.7	9.3	8.2	9.6	3.6	2.1	14.9	8.5	7.8
30～39歳	100.0 (191)	38.7	6.3	12.0	8.9	13.6	5.2	13.6	6.3	5.2	17.3	12.0	7.3
40～49歳	100.0 (151)	32.5	5.3	6.6	4.6	20.5	4.0	22.5	6.6	6.6	11.3	12.6	7.9
50～59歳	100.0 (142)	40.8	7.7	3.5	4.2	12.0	3.5	17.6	10.6	3.5	14.1	7.7	10.6
60～69歳	100.0 (287)	47.4	6.3	2.8	2.4	10.8	2.4	8.0	4.9	4.5	7.0	14.3	13.6
70～79歳	100.0 (309)	53.4	9.1	1.6	6.5	6.8	3.2	3.6	0.3	2.9	4.2	10.7	15.5
80歳以上	100.0 (175)	50.3	11.4	1.1	2.9	3.4	1.7	0.6	-	0.6	1.7	12.6	20.0